

NISA班 プレス対応班

11月24日

暫定版

プラント状況(本店会見)議事メモ

(押印)

(印)

日時：平成23年11月24日(木) 11:00～11:20

場所：東京電力本館3階大会議室

先方：記者約10名(カメラ3台)

当方：原子力・立地本部

原子力設備管理部

広報部

## 配布資料：

- 福島第一原子力発電所における高濃度の放射性物質を含むたまり水の貯蔵及び処理の状況について(第22報)

[ ] よりプラント状況、配付資料に関して説明。

## 質疑：

Q. 6号機補機冷却海水ポンプは、点検前に稼働していたのか。

A. 点検前は、補機冷却海水ポンプを使用し、使用済燃料プールの冷却を行っていた。

今回6号機取水路における清掃作業のため約10時間停止し、作業終了後に再起動した際、トリップしたため点検を実施している。

Q. 通常は予備機があるのでないか。

A. 全てが復旧していないため、予備がない状況である。そのため、補機冷却海水ポンプ復旧前と同様に、原子炉冷却に使用している残留熱除去系ポンプにより原子炉と使用済燃料プールを交互に冷却する。

Q. 考えられる原因は。

A. 電気的なものか機械的なものによる故障なのか調査しているところ。昨日は夜間になったため一時中断していたが、本日調査を再開する。

Q. 施設運営計画において、原子力安全・保安院が温度計の精度についてさらなる調査が必要だと言っているが、今後改めて報告書等を提出する予定はあるか。

A. 11月9日の施設運営計画改訂版における温度計の不確かさについては、評価の余地があるというコメントを原子力安全・保安院からいただいており、再提出の必要性に関しては協議中であるが、いずれにしても何らかの形で提出すると思われる。

Q. タービン建屋内の水位をO.P.3,000mmで維持することによって、放射性物質の環境中の放出を抑制しているが、ステップ2終了に向けてサブドレン水を汲み上げることにより、水位の低下を図ることはないので。

A. 溜まり水がステップ2終了や至近の作業に影響するものではないため、当面はO.P.3,000mmを維持したい。サブドレンの水位に対し、タービン建屋内の水位を下げすぎると、地下水からの流入が大きくなる。そのため建屋内の水位を下げる際には、サブドレン水を汲み上げるポンプを復旧させる必要がある。

Q. ポンプの復旧が遅れている理由は。

A. 汚み上げた水の処理の見通しも含めて検討する必要がある。復旧にあたっては被ばくの問題があるため、水の処理の見通しが立ってからでも問題ないと考えている。

Q. サブドレン水の汚染度合いはどのくらいか。

A. 週3回、モニタリング結果をお知らせしているが、2号機が一番高く10の0乗である。その他の号機はNDだが、検出限界値を下げれば検出される可能性はある。

Q. サブドレン水の汲み上げに対して、慎重になっている理由は。

A. 地下水からの流入量が1日あたり約500トンと考えており、汲み上げた水をどうするかが課題になっている。

以上